

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年11月9日(2006.11.9)

【公表番号】特表2004-500013(P2004-500013A)

【公表日】平成16年1月8日(2004.1.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-001

【出願番号】特願2000-577297(P2000-577297)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 0 1 K	67/027	(2006.01)
A 6 1 K	31/711	(2006.01)
A 6 1 P	7/00	(2006.01)
A 6 1 P	7/06	(2006.01)
C 0 7 K	14/705	(2006.01)
C 0 7 K	16/28	(2006.01)
C 1 2 N	1/15	(2006.01)
C 1 2 N	1/19	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
C 1 2 P	21/02	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
G 0 1 N	33/53	(2006.01)
G 0 1 N	33/566	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 0 1 K	67/027	
A 6 1 K	31/711	
A 6 1 P	7/00	
A 6 1 P	7/06	
C 0 7 K	14/705	
C 0 7 K	16/28	
C 1 2 N	1/15	
C 1 2 N	1/19	
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 P	21/02	C
C 1 2 Q	1/02	
C 1 2 Q	1/68	A
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/50	Z
G 0 1 N	33/53	D
G 0 1 N	33/53	M
G 0 1 N	33/566	
C 1 2 N	5/00	A
A 6 1 K	37/02	

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月22日(2006.9.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】**【特許請求の範囲】****【請求項1】**

(a) 配列番号5に示されるアミノ酸配列と、

(b) 配列番号5に示したアミノ酸配列の対立遺伝子変異体のアミノ酸配列と、

(c) 配列番号5に示したアミノ酸配列の配列変異体であって、ストリンジエントな条件下で、配列番号6に示した核酸分子にハイブリッド形成する核酸分子によりコードされる配列変異体のアミノ酸配列と、

(d) 少なくとも8つの連続したアミノ酸を含む、配列番号5に示したアミノ酸配列の断片と、

(e) 配列番号5に示したアミノ酸6～372番目の成熟受容体ポリペプチドのアミノ酸配列と、

(f) アミノ酸1～25番目の、配列番号5に示したポリペプチドのアミノ酸配列と、

(g) (a)から(f)までのポリペプチドのいずれか1つのエピトープ含有領域のアミノ酸配列と

からなる群から選択されるアミノ酸配列を有する単離ポリペプチド。

【請求項2】

請求項1の(a)～(g)に選択的に結合する単離抗体。

【請求項3】

(a) 配列番号6に示したヌクレオチド配列と、

(b) 配列番号5に示したアミノ酸配列をコードするヌクレオチド配列と、

(c) (a)または(b)のヌクレオチド配列のいずれかに相補的なヌクレオチド配列と

からなる群から選択されるヌクレオチド配列を有する単離核酸分子。

【請求項4】

(a) 配列番号6に示したヌクレオチド配列にストリンジエントな条件下でハイブリッド形成する、配列番号5に示したアミノ酸配列の配列変異体のアミノ酸配列をコードするヌクレオチド配列と、

(b) (a)のヌクレオチド配列に相補的なヌクレオチド配列と

からなる群から選択される、ヌクレオチド配列を有する単離核酸分子。

【請求項5】

(a) 少なくとも8つの連続したアミノ酸を含む配列番号5に示したアミノ酸配列の断片をコードするヌクレオチド配列と、

(b) (a)のヌクレオチド配列に相補的なヌクレオチド配列と

からなる群から選択されるヌクレオチド配列を有する単離核酸分子。

【請求項6】

請求項3～5のいずれかに記載の核酸配列を含む核酸ベクター。

【請求項7】

請求項6のベクターを含む宿主細胞。

【請求項8】

(a)～(g)のポリペプチド配列のいずれかをコードするヌクレオチド配列を宿主細胞に導入するステップと、タンパク質が核酸から発現される条件下で前記宿主細胞を培養するステップとを含む請求項1のポリペプチドのいずれかの製造方法。

【請求項9】

サンプル中の請求項 1 のポリペプチドのいずれかの存在を検出する方法であって、サンプル中のポリペプチドの存在の検出を特異的に可能とする物質と前記サンプルとを接触させるステップと、前記ポリペプチドの存在を検出するステップとを含む方法。

【請求項 10】

前記物質は、前記ポリペプチドとの選択的な物理的会合が可能である請求項 9 の方法。

【請求項 11】

前記物質は前記ポリペプチドに結合する請求項 10 の方法。

【請求項 12】

前記物質は抗体である請求項 11 の方法。

【請求項 13】

前記物質はリガンドである請求項 11 の方法。

【請求項 14】

請求項 9 の方法に使用するための試薬を含むキットであって、前記試薬は、前記ポリペプチドに特異的に結合する物質を含むことを特徴とするキット。

【請求項 15】

サンプル中の請求項 3 ~ 5 のいずれかの核酸配列のいずれかの存在の検出方法であって、核酸配列にストリンジエントな条件下でハイブリッド形成するオリゴヌクレオチドとサンプルとを接触させるステップと、オリゴヌクレオチドがサンプル中の核酸配列と結合するかを決定するステップとを含む方法。

【請求項 16】

存在を検出する核酸は、mRNA である請求項 15 の方法。

【請求項 17】

請求項 15 の方法に使用する試薬を含むキットであって、試薬が、ストリンジエントな条件下で核酸分子のいずれかにハイブリッド形成する化合物を含むことを特徴とするキット。

【請求項 18】

請求項 1 のポリペプチドのいずれかに結合する物質を同定する方法であって、ポリペプチドに結合する物質とポリペプチドとを接触させるステップと、ポリペプチドに結合した物質により形成された複合体をアッセイするステップとを含む方法。

【請求項 19】

ポリペプチドの断片を接触させる請求項 18 の方法。

【請求項 20】

請求項 1 のポリペプチドのいずれかの活性を調節する方法であって、物質がポリペプチドの活性を調節できる条件下で、前記物質と請求項 1 のポリペプチドのいずれかとを接触させるステップを含む方法。